

御宿文化財マップ



※マップは実際の縮尺と異なります。また、各店舗の詳細は変更になる場合があります。危険区域や個人所有の文化財については、見学することが出来ないものもありますので、ご了承ください。

18 木造阿弥陀如来坐像
 像高 53cm、膝張り 47cm
 蓮台高さ 22cm
 寄木造り、玉眼で胸の厚さがいざさか薄く、製作年代は、室町末期と推測される。

19 木造大日如来坐像
 像高 62cm、膝張り 45cm
 白毫相 45cm
 寄木造り、この仏像の製作年代は、室町上期と推測される。

20 木造如意輪観音坐像
 像高 55cm、膝張り 40cm、台座高さ 24cm
 寄木造り、宋様式の仏像として優れた遺品で、室町上期の製作と推測される。

21 木造阿弥陀如来坐像
 像高 49.8cm
 寄木造り、漆箔が施され玉眼で定印を結んでいる。鎌倉期の蓮慶派仏師の作風に学び江戸時代中期に作られたものである。

22 木造傳祐上人坐像
 像高 42.8cm 1612年作
 袍裳の僧衣を着る僧形像である。宗覚という人物が傳祐上人の死後、供養のため66歳の時の肖像画を元に製作した寿像である。

23 木造阿弥陀如来及び両脇侍立像
 像高 14cm、両脇侍像高 8cm
 江戸時代の中頃、御宿町高山田出身の僧円仲という人物が京都にて手に入れ、像を背負いながら、日本中を巡礼した。

24 閻魔胎内像・十王像
 大王坐像高 77cm、肩巾 63cm
 膝張り 82cm、各王坐像高 24.4cm
 肩巾 15cm、膝張り 30cm
 胎内立像高 15cm、肩巾 6.3cm
 肘張り 8.8cm
 製作年代は江戸初期と推測される。

25 薬師堂の磨崖佛
 像高 64cm、座巾 60cm
 岩和田薬師堂裏の山に地上230cm奥行き 110cmの洞窟が削り作られており、釈迦・薬師・地藏の三尊が慈覚大師によって彫られている。

26 堂坂薬師の磨崖佛
 像高 40~42cm、肩張り 18~20cm
 御宿町浜区岩ヶ山堂坂の海岸治いの急斜面に岩肌をくり抜いて、5体の磨崖佛が彫られている。

27 小幡神楽囃子
 江戸時代中期、当時小幡村の人たちが諸病、諸悪魔退散と五穀豊穡を祈願するために神楽舞いの芝居道具並びに具台を作り揃えたと伝えられている。

28 高山田神楽囃子
 天養元年の鎮座と言われている春日神社を氏神様として、寛永年間御遷宮の記念に祭囃子と神楽を奉納して以来、神社の初籠りの夜と例祭の神輿の渡御に先立ち奉納されるようになった。

29 実谷区八坂神社旧神輿の胴回りの飾り彫刻
 実谷区にあった八坂神社の社殿が取り壊される際に、収蔵していた神輿も解体された。このときから外された胴回りの彫刻は山神社に保管された。彫刻は上り竜と下り竜、鳥や人が彫られており、縦24cm、横39cm。

30 最明寺向拝の獅子頭、象鼻の彫刻
 最明寺建替の際に、嵌め込まれていたつがぶんに、東部分に武志伊八郎信由と墨書きされているのが発見された。武志伊八郎信由は現在の鴨川市の生まれの宮彫師で、“波の伊八”の名を広く知らしめた。

31 月夜見神社の宝塔
 高さ 18cm、直径 20.3cm、周囲 61cm
 宝塔上部に直径7cm、深さ8.5cmの穴が開いており、現在は失われた上部の塔がはめられていたと考えられる。

32 久保 行屋跡の宝塔
 高さ 21cm、周囲 64cm
 塔の周囲6面には縦18.5cm 横8cmの枠があり、縦14cm 横7.3cm。制作年代等詳細は不明だが月夜見神社の宝塔と類似していることから、深い繋がりも推測される。

33 亀甲地双鶴鏡
 直径 11cm、縁厚 0.9cm
 直角式中縁円鏡、素材は青銅、亀甲亀のボタンがある。二圈のため室町中期の作品と推測される。

34 白銅鏡
 直角式厚縁円鏡、亀甲のボタン、二圈である。右下から上部全体に一本の松樹をおき、左の圈に梅花をあしらひ、下部から左中部に親鶴とひなが生動している。右の圈と縁の間に小さく天下一若狭守の銘がある。江戸中期の名作と評価される。素材は白銅である。そらくは神鏡として製作したものと推測される。

35 双盤
 天台宗で用いる佛具で、伏鉢の大型なもので框に取付けて撞木で鳴らすものである。念佛などの時に鳴らして調子をとる鉢であり、また法要開始とか終了などの合図等に用いる。この双盤は元文3年江戸中期の作で、御宿町に二面とも完全な形で残るものはこれのみで、作者も相当な佛工匠と推測される。

36 堂坂薬師の手洗い鉢
 高さ 40cm、盃形
 江戸時代初期に、紀州湯浅村から上総の当地方へ鰯漁に来ていた者が奉納したものである。